

米継泳は葉権校多き爲豫選はなく決勝なる

決勝 得點は 七、五、四、三、二、一  
百米自由型

- 一着 花房(大商)二分七秒二新記録
- 二着 長村(岐商)一分七秒二同
- 三着 關谷(岐中)
- 四着 堀尾(栗農)
- 五着 林(本校)一分九秒
- 六着 竹谷(膳中)
- 等外 筒井(栗太)

林スタート非常に悪くターンでは六位後半を頑張つたが及ばず、竹谷を抜いたのみにて惜しくも五着となる。得點は二點。一、二着はタイムの示すごとく殆んど同時につきまツチ差で花房勝つ。

二百米胸泳

- 一着 大橋(栗太)三分十三秒五
- 二着 武岡(四日市)
- 三着 藤本(本校)三分十五秒六
- 同着 北野(栗太)三着迄大會新記録

トを失敗してピンチ整はず、六着になり大いに残念がる。得點四點。

二百米自由型

- 一着 堀尾(栗農)二分三十一秒二
  - 二着 林(本校)
  - 三着 筒井(栗農)
  - 四着 關谷(岐中)
  - 五着 服部(岐商)
  - 六着 西村(大津商)
- 林初め五位であつたが後半猛然とピッチを上げ見事二着となる。得點五點。
- 三百米メドレーリレー(背泳、平泳、自由型)
- 一着 栗農 三分五十九秒
- (稻栴、北野、堀尾)
- 二着 本校(杉本、藤本、林)
  - 三着 彦商(角田、増田、林)
  - 四着 岐商(後藤、向井、志知)
  - 五着 大商(佐藤、遠藤、花房)
  - 六着 大垣商

栗農稻栴スタートするや猛烈にピッチを上

- 五着 鈴木(四日市)
- 六着 向井(岐商)
- 等外 西村(本校)

藤本、西村共によく奮闘し藤本は豫選より二秒許りタイムを上げて三着となる。西村は向井とラスト十五米邊でせり合つたが惜しい所で等外となる。得點は三點半。

- 一着 杉江(栗太)五分二十九秒六
- 二着 安藤(岐商)
- 三着 田中(栗太)
- 四着 太田(膳中)
- 五着 森(本校)六分フラット
- 六着 服部(岐商)
- 等外 林(彦商)

此のレースに於ける森の奮闘目覺しく服部林をひり入り賞す。得點は二點。

二百米繼泳

- 一着 大商 二分三秒二 新記録
- 二着 岐商 二分三秒八 同

げ、斷然他を引き離す、杉本、彦商角田に食いつて約一身分の差で二番藤本に繼ぐ。藤本スタートするやぐんぐん出て彦商増田を引き離し、栗農北野を追い差をちぢむれども抜き切れず、ラスト林に繼ぐ。林二位を確守してゴールイン。得點五點。

八百米繼泳

- 一着 栗太農學 十分三十五秒四。
- 二着 岐阜中學 タイム 記録。
- 三着 岐阜商業 (上野、志知、服部、安藤)
- 四着 大津商業 (井上、中村、西村、川邊)
- 五着 本校 (杉本、松田、森、林)
- 六着 大垣商業

トップの杉本は岐中、岐商、大商とせり合ひながら進み二位となり二番松田に繼ぐ。松田は三百五十米迄二位を保つてゐたがラストの五十米で甚だしく疲れ、大商岐商より十五米許り遅れる。三番森頑張つて其の差を十米に詰めラストの林は更に詰めてゴール前で並行したが、タツチの差で五位となる。タイム

- 三着 本校 二分四秒 同
- 四着 岐中
- 五着 栗太農學
- 六着 大垣商業

トップ森、力泳又力泳、強引に大商岐商を引き離し、二番松田に繼ぐ。松田懸命に力闘せしもラストで弱り大商に抜かる。三番杉本大津商を追へども及ばず、近府縣短距離界のナンバードン岐商の長村に抜かれ三着となりラスト林に繼ぐ。林腕も折れよとばかり力泳し岐商を抜くかと思はれたが僅か手首一つの差で三着となる。得點四點。

百米背泳

- 一着 稻栴(栗農)一分十八秒八
  - 二着 角田(彦商)
  - 三着 山田(大垣商)
  - 四着 杉本(本校)
  - 五着 後藤(岐商)
  - 六着 井口(本校)
- 杉本、井口共に奮闘して入賞す。井口スタ

十一分十四秒。得點二點。

各校得點及び順位。参加校は十一校  
栗農六十九點半一位、岐商三十五點二位、本校二十七點半三位、大津商二十點四位、岐中十五點五位、彦商十二點六位、大垣及び四日市商各七點七位、膳中五點八位、他は皆零點。

今度の成績は栗農の大會明大の大會に比して見て非常な進歩である、然し我々はこれで満足は出来ない。我々の目指す目標は覇權だ!! 榮冠だ!! 尙一層の努力をしなければならぬ。

### 和歌山高商主催關西中等學校競泳大會出場之記

九月に入つてから好調の我々選手は更に一層の練習を積んで、今度こそは日頃の望みを遂げんぞ意氣揚々と十二日和歌山に乗込んだ参加校は十七校、目指す敵は和商、和中、翌十三日大會は愈々二百米繼泳豫選より開

始められた。

和商、和中何者ぞ。我等は一氣に彼等を倒さんとす。

戦績 豫選

二百米継泳

C組 一着 桃山中 二分三秒四

二着 和中

三着 本校 二分六秒

此のレースで森は桃中、和中を引離したが第二泳者杉本はターンで下手し、三者並行して第三泳者松田に繼ぐ。松田ターン迄他と並んでゐたが、引返す時に失敗して三秒許り遅れ他との差五米となる。林奮闘したが此の差を取返す術もなく僅かに詰めたのみにて落つ二百米自由型

A組 一着 森 (本校) 二分三十九秒八

二着 小松 (京一中)

好調子の森は始めからぐんぐん出て他を斷然離し二分三十九秒八の好タイムで入選す。

U組 一着 林 (本校) 二分四十秒二

準決勝

百米自由型

一着 奥野 (市岡) 一分九秒六

二着 林 (本校) 一分九秒八

林益々本領を發揮す愈々決勝へ進む。

百米背泳

一着 土浦 (和商) 一分廿一秒六

二着 井口 (本校) 一分廿二秒四

三着 友田 (京一中) 一分廿二秒六

四着 杉本 (本校) 一分廿二秒八

井口、杉本は土浦、友田等の強者揃ひの中へ入れられ甚だ不利であつたが、愈々レースが始まるや二十五米迄は井口のみ一ストローク遅れ、他の三者は並行五十米のターンに至り、井口漸く追付き四者殆んど並行して進むラスト二十五米に差かかると井口猛然出て二着に入る。杉本は實に僅かの差で友田に破らる。

二百米胸泳 西村よく自己の最高記録を出して奮闘したが及ばず惜しくも落選す。タイ

二着 小島 (桃中) 二分四十四秒八

三着 森口 (耐中) 二分四十五秒

林始め非常な力泳で百米を一分十二秒で入る。百五十米から力を落し樂々入選す。森口はベストサード入選。

百米自由型

C組 一着 奥野 (市岡中) 一分九秒八

二着 森口 (耐久中)

三着 小島 (桃中) ベストサード

四着 松田 (本校)

松田調子出す惜しくも落つ。時間一分十四秒。

D組 一着 林 (本校) 一分九秒六

二着 山戸 (和商)

F組 一着 杉本 (本校) 一分十二秒八

二着 松尾 (和商)

杉本健闘の甲斐ありて一着にて入選す。此れで二百米に二名百米に二名豫選を通過す。

二百米胸泳

B組 一着 川崎 (和商) 三分八秒

決勝

ム三分二十二秒。

四百米自由型

一着 前川 (和中) 五分二十三秒

二着 兒島 (耐久) 五分二十九秒

三着 西本 (和商) 五分三十一秒

四着 橋口 (桃中) 五分三十八秒

五着 森 (本校) 五分三十九秒

六着 井村 (和商) 五分四十秒

森よく奮闘し栗農大會に於ける勇者和商の井村を破りて入賞す。此のタイムも森の最高記録である。得點二點。

百米自由型

一着 鹽澤 (鳳中) 一分七秒六

二着 林 (本校) 一分八秒六

三着 奥野 (市岡) 一分九秒二

四着 山尾 (桃中)

五着 土浦 (和商)

六着 佐藤 (桃中)

一コースは鹽澤六コースは林で遠く離れて

二着 西村 (本校) 三分二十四秒

西村の活躍目覚しく二着となり入選す。

F組 一着 川崎兄 (和商) 三分八秒

二着 河合 (岸和田) 三分十二秒

三着 藤本 (本校) 三分十二秒

四着 藤本 (本校) 三分十二秒

藤本百五十米迄三位で進み最後のターンから猛烈にビツチを上げゴールへ二着で入つたが、岸中の河合も又殆んど同時で二、三着の見分けが付かなかつた。藤本は自己のベストタイムで泳ぎ切つたのであるが、審判員の方で三着にされ落選したのは残念であつた。

四百米自由型

E組 一着 前川 (和中) 五分二十三秒

二着 森 (本校) 五分三十九秒

三着 井村 (和商) 五分四十九秒

此の競泳の中へ百米の選手が二名誤まつて出場した爲、四百米の選手は始め百米の選手の爲につられ、後でへたばつてしまふかも分らぬと心配したが、森は最後迄全力を注いで奮闘した爲五分三十九秒の好記録で入選す。

終始盛にせり合つたが惜しくも二着となる。得點は五點。

二百米自由型

一着 前川 (和中) 二分三十一秒

二着 島本 (和商) 二分三十五秒

三着 西本 (和商) 二分三十七秒

四着 林 (本校) 二分三十七秒一

五着 水原 (和商)

六着 宮井 (耐中)

此のレースで林は少くとも二着位にはなれるべきであつたが、百米を泳いであまり間がなかつた爲、最後に疲れを生じ惜しい所で四着となる。即ち百五十米迄斷然一位を占め二位との差四米位であつたが最後の五十米で三位に落ち西本と殆んど同時に着いたがタツチの差で破れた。得點三點。

百米背泳

一着 土浦 (和商) 一分十九秒六

二着 井口 (本校) 一分廿一秒六

三着 田村 (桃中) 一分廿三秒六

四着 友田(京一中) 一分廿三秒八  
 五着 宮田(神港商)  
 六着 林(和師)  
 井口七十五米迄よく自重して友田に従つて泳ぐ。後の二十五米は非常なラストダツシュで友田を抜き土浦に迫つたが及ばず二着となる。得點二點。  
 八百米繼泳

- 一着 和歌山商業 十分三十九秒  
 二着 本 校 十分四十七秒六  
 三着 和歌山中學 十分五十一秒  
 四着 桃山中學  
 五着 耐久中學  
 六着 京都一中

我がチームは苦手の此のレースで意外の好成績を取る。即ちトップの杉本は和商との差三米で二位となり、續く井口は和中、桃中耐中に抜かれたが其の差を大きくするまいと奮闘に奮闘を重ねた爲六米位二位より遅れ森に繼ぐ。森は猛烈なスタートダツシュで見

見る中に和中、耐中を抜き、次いで桃中をも少し抜いてラストの林に引渡す。林は桃中との差増々大きくしたが、和中のラスト前川に幾分詰めらる。されど和中との差約五米で二位となる。得點五點。  
 ラップタイム

- 杉本典夫 二分三十九秒  
 井口敏彦 二分五十三秒六  
 森彌一郎 二分三十八秒  
 林 正二 二分三十七秒

得點校	總得點	順位	得點校	總得點	順位
和歌山商業	五三點	一	和歌山中學	七點	七
和歌山中學	三二點	二	市岡中學	七點	八
桃山中學	二四點	三	京都一中	五點	九
彦根中學	二〇點	四	第一神港	二點	十
耐久中學	一八點	五	他は皆零點		
和歌山師範	八點	六			

ああ!! 又しても敗れた。

我々は此の大會こそ覇權を握り日頃の目的を達成せしめよう。元氣と意氣とに満ち溢れ

て戦ひに臨んだのに!  
 何と言ふ運命の神のいたづらだらうか、練習に練習を積み、自信ある十分な實力を備へて戦つたのであつたが、不幸なことに藤本君のプレスト、杉本君のバック、森君の二百米及び二百米リレーに於ける松田君等は二十五米プールに不馴れの爲にメーンを失敗したり廻数を誤まつて、全部入賞の可能性があつたのに落ちたのは非常に残念であつた。  
 斯くして又々敗殘者として歸らねばならなかつた。  
 許せ!! 諸君 來年だ!!  
 來年こそ一層の奮勵努力を爲して一大飛躍を試みよう。  
 ああ!! 努力!!

### 後記

二、三年來めきく男をあげて來た我部は昨年黄金時代建設の夢破れ、主戰選手三名を送り出し本年の成績も一時は大變危ぶま

したが中堅たる三、四年生選手の異狀なる進歩によりやつと昨年より好成绩を擧げることが出来ました。今年林、藤本の兩名去るとも林の後繼者として松田、中村の兩名藤本の後繼者として西村、中村の兩名健在にして何等の心配もなく殊に中距離の森、背泳の井口の來年度の活動こそ實に刮目して待つべきであります。

此所に昨年度ベストタイムと本年度ベストタイムとの比較を示せば。

- 自由型  
 A 本年 五十米二十八秒九 林 正二  
 同 二十九秒八 森 彌一郎  
 B 昨年 同 二十九秒六 坂野 慎吾  
 A 百米 一分八秒一 林  
 B 同 一分八秒五 山本 可人  
 A 二百米 二分廿五秒 林  
 同 二分廿七秒 森  
 同 二分廿九秒 杉本 典夫  
 B 同 二分四十秒八

- A 四百米 五分卅九秒 森  
 同 五分五十一秒 杉本  
 B 同 五分五十九秒 林  
 A 百米背泳 一分二十一秒六 井口 敏彦  
 同 一分二十二秒八 杉本  
 B 同 一分二十三秒七 山本  
 A 百米平泳 一分二十七秒 藤本 善雄  
 同 一分三十二秒 中村 弘  
 B 同 一分三十三秒四 西村平二郎  
 A 二百米平泳 三分十二秒四 藤本  
 B 同 三分十四秒 喜久川  
 A 二百米繼泳 二分四秒(森、松田、杉本、林)  
 B 同 二分五秒二(山本、松田、林、坂野)  
 A 八百米繼泳 十分四十七秒六(杉本、井口、林)

- B 同 十一分卅七秒(山本、宮川、坂野、林)  
 A 三百米メドレーリレー 四分四秒(杉本、藤本、林、喜久川)  
 B 同 四分十秒(山本、喜久川、坂野) 以上

### 古川君に榮冠輝けり

近藤謙次郎

十一月一日 此の日は實にいゝ天氣だつた城山の鐘の音も平和に鳴響き町は平和で静であつた。此の日!

未だ認められざる我が部は敗戦を重ねた面目を一新せんが爲に我部の主賓古川傳三郎君を奮然として立たしめ彦根商業縣立移管記念第一回關西中等學校優勝雄辯大會に出馬を命じたのだつた。いよゝゝ關西の雄者が此の金亀ヶ原頭集り來り彦根町公會堂に於て舌辯を競ふことゝなつた。

中京の雄者、彼の全國に覇者たる名古屋商業、中京商業、縣下の雄者八幡商業、彦根工

業、長濱商業、大京の雄士、大谷中學。

煙々とした物質都市の雄、天王寺商業、北陽商業、此の外優勝の榮冠を日ざして集る關西の雄者三十餘校。

此の日古川君はコンデイション悪く、咽喉をいため大いに心配してゐた、プログラムは前半の終りである、時は来た！

同胞の物狂い聲援と拍手に送られて段上に立つた彼の姿は、競技で練へた身心は見事であつた、どつしりと坐つた彼の膽力、彦中のハンサムボーイ古川君一度口を開けば之又如何に滔々たる彼の雄辯は實に滿堂に溢れ、逆流渦巻く彼の論ずる一言一句滿堂の人々を感動せしめた。

前半にして斷然頭角を表はした彼の成績は後半如何に轉回するか心配しながら善く戦つて下れた副將古川君に感謝せざるを得なかつた、後半も何事もなく無事一等優勝の榮冠を勝ち得たのだ。

實に——此の時程赤鬼健兒を誇つたことは

なかつた。噫！遂に彼の日頃の苦心は報いら

れたのだ。或る時は琵琶の怒濤に向ひ、或時は月の夜靜かな田園で血の出る様な練習競技により疲勞し切つた体で辛苦に辛苦をなめ今日こゝにむくいられることになつた。

我等雄辯部の進むべき門出の時に早や報いられた。

諸君よ！祝へ！此の門出の時を！空は晴れてゐるぞ！

後輩の爲にその進路を開いた古川君の努力に感謝すると共に來年度は今年に優る成績を上げてほしい、でないと古川君の絶叫した熱辯は一朝のはかない夢となつて終るのだ。辯論部の復興！そして此所にストックされてゐた六百の頭腦は今や花を咲せる時が来たのだ。

後輩達よ校内辯論大會を開け！諸君の力で開け。

そして典型的辯論の雄士を見出せ。

學藝部員 近藤賢次郎

## 學藝部々報

古川傳三郎 記

諸君！今年も過ぎて行きます。何んだか底淋しい気分が此の小さい心の底に滿ちてゐます。何んとなくもつと學校の爲に辯論のため盡したいその心で滿ちしてゐます。

然し諸君私にはそうした権利が——方々に出場する——無いらしい氣がしてならないのです。私の心の裏に何か名状し難い暗いものがくつゝいてゐるのです、それが——私をして進んで學校の爲に盡せなかつたのです然し私には愛國心が燃えてゐると同様に愛校心に燃えてゐます、その愛校心が私に永しぶりで辯論部史なるものを作らしたのです。何にも自己名譽の爲特有のチヨカ振りを發揮した解でないことを認めて頂きたい、否認めて下されなかつたかまやしない、唯本心から愛校心に燃えてゐるんだから。

私は昨年の校友會々誌に文語と國語を混じ

た拙い文を發表した。諸君はあの馬鹿奴郎が下手な讀みにくい物を發表しやがつた位に想はれてゐたでありませう。然し私は今の社會の狀態から考へ雄辯の必要を此の心の底に痛切に感じました。

そして本校に此の方面に少しの熱もそよがれてゐないのを見た時あの文を書かしためたのであります。何も強いてあんなものをのせたくはなかつたのだ。そしておまけに私は勝手にも何等かの反響を氣持してゐたのであります。

然し私は五月學校に來てから諸君が此の方面に若干の留意もしてゐないことを感じた時私は私をして第一線に立たしめたのであります。自信はなかつた、然しそれを考へてゐる時ではない、唯私は學校の將來の爲に彦中の辯論を復興したかつたのです、唯それだけで充分自己の務は果せたと確信してゐたのです。

六月の初旬文藝部部长から高商の雄辯大會

に出て見ないかと云はれた時私は嬉んで承諾しました、然しながら私は毎日競技の練習しなければならなかつた、それで私は一方ならぬ苦心をしました、夜は川原に出て怒鳴りました。何等の指導も受けづに出場する我は何となく悲しかつた。

然し私は唯々熱でおし通す決心をしましたそれだけで！拙ない原稿に拙い口！此れが今何をしようとしてゐるのか、それを考へると淋しかつた、唯、しように淋しかつた。

昔んながあざけり笑つてゐるのだ、のよしつてゐるんだ、そう想ふと私は私の意持が頭をもたげるのを意識した。

### 彦根高商主催近府縣中等

#### 學校優勝雄辯大會出場記

六月二十八日 思へばなつかしい處女出演だ！

此の胸の動きがはげしく感ぜられた、午前十時開會。

近府縣の雄者が集つてゐた、未経験者の淋しさを此の胸に秘めてすみの方に小さくなつてゐたのを想出すと我ながらあはれになる。

演題「黎明は自信力より」

辯士 古川傳三郎

場所 彦根高商大講堂

我は此の聲の續く限り努力したベストを盡した。

然し敗れたし美事に等外の敗残者として諸君と顔を會さなければならなかつたでも——自信を得た、尊い自信と体験を得た、そして來るべき大會に諸君の前に勝者として立つて見せるぞ、そして學校の名を擧げて見せるのだ、許せ此の敗戦を！

### 名古屋商業主催第三回全國中等

#### 學校學生優勝雄辯大會出場記

私は今日こそは勝手を見せるぞと云ふ大なる野心と希望に輝きながら中京の都市に來た全國の雄辯の士六十名だ。

辯士 古川傳三郎

會場 名古屋市大公會堂

期日 九月二十四日午前九時より

演題 「國家多難に際して青年の努力を待

つ」

諸君、一萬人の入場を許す大ホールを想像されよ。

敗れた、再度の連敗！許せと云ひたいがそう云ふ元氣もなかつた、来るべき大會をもう一度でいゝから出場さして下れそれのみを望む。

### 長濱商業主催第五回關西中等

#### 學校優勝辯論大會の記

同志を得た！私は嬉しかった！同志の成功を祈つた。

辯士 三輪久三

會場 長濱商業

期日 九月二十七日午前九時より

演題 「青年の叫び」

未経験者の同志は敗れた、恨根にむせぶ涙

を目のあたりに見た時感慨無量だつた。

### 八幡商業主催全國中等學校

#### 優勝辯論大會出場記

日時 十一月一日午前九時

場所 同校講堂

辯士 三輪久三

演題 「青年よ、土に親しめ」

同志も再度の敗戦に會つた恨根深く我が心底に刻み込んだ今度こそは！は！連發してゐる同志を見ると何も云へなかつた。

### 彦根商業主催縣立移管紀念中

#### 等學校優勝辯論大會出場記

日時 十一月一日正午より

會場 彦根公會堂

辯士 古川傳三郎

演題 「青年の使命」

私は決心してゐた！私は決死で戦つた！私は勝たざるを得なかつた！私は我を忘れてゐた！私は……

次が云へない、然し私は今度こそ諸君の前に立つことが出来るのだ私は優勝したのだ。感慨無量だ。

### 彦根工業主催縣下中等

#### 學校辯論大會出場記

又同志を得た同志の成功を祈つた。

日時 十一月八日午後一時より

會場 同校假講堂

辯士 北森末吉

演題 「舉國一致の秋」

敗れた、何分にも経験がなかつたのだから許せ六百の諸君。

回顧 歴史を持たない我部としてはあまりにも悪ぐまれた部でありました。これもこれも唯六百の健兒の後援に他ならぬと想ふと感謝の爲に感慨無量です。

終りに臨んで我雄辯なるものに若干なりとも留意して下さらむことを切望するものであります。(完)



## 雜 錄

### 豫饒送別會

二十七日 金曜 本日より五日間、第四學年考査

〇三 月

三日 火曜 除野知事來校視察

四日 水曜 第四學年終業式舉行

七日 土曜 本校第四十三回卒業式舉行

十日 火曜 陸軍記念日、第五時限に狩野教官の講話あり

十二日 木曜 本日より五日間、第三學年以下考査

十七日 火曜 終業式舉行、上木教諭、及川先生の告別式

二十六日 木曜 入學考査施行

二十七日 金曜 入學許可者發表

〇四 月

八日 水曜 始業式舉行、大崎、前田兩教諭の新任式あり

各組正副級長及校友會委員の選舉、午後一時より入學式舉行

九日 木曜 新舊生徒對面式

十一日 土曜 午後二時より新艇庫建設地鎮祭舉行

十六日 木曜 全校生徒宇會川堤へ行軍

## 本校日誌抄

〇一 月

一日 木曜 新年拜賀式

八日 木曜 始業式

九日 金曜 武道寒稽古開始

二十二日 木曜 御眞影拜戴式舉行

二十八日 水曜 文部省視學委員上田先生御來校

〇二 月

四日 水曜 第五學年生徒一同記念撮影

十一日 水曜 紀元節拜賀式

十四日 土曜 全校野外演習舉行

十九日 木曜 本日より五日間、第五學年考査

二十三日 火曜 第五學年生徒校旗に告別の分列式、同卒業

十七日 金曜 朝禮時多田教諭就任式舉行  
 二十七日 月曜 身体検査開始  
 二十九日 水曜 天長節拜賀式舉行  
 三十日 木曜 第三時限全校生徒招魂社參拜  
 ○五 月  
 一日 金曜 本校創立記念式、端艇大會舉行  
 四日 月曜 第四學年父兄會  
 六日 水曜 身体検査終了  
 八日 金曜 第五學年修學旅行、九州方面、午後五時五十八分發列車にて出發  
 十一日 月曜 第四學年修學旅行、九州方面、午後五時五十八分列車にて出發  
 十四日 木曜 第五學年修學旅行隊無事歸校、第三學年以下摺針峠へ遠足  
 十八日 月曜 第四學年修學旅行隊歸校  
 二十七日 水曜 本日より考查開始  
 ○六 月  
 五日 金曜 御親閱記念團分列式舉行  
 六日 土曜 朝禮時藤田先生就任式  
 十日 水曜 朝禮時學校長より時の記念日に就き訓話あり

十二日 金曜 放課後港灣にて新築艇庫落成式舉行  
 ○七 月  
 七日 火曜 第一學期考查開始  
 十一日 土曜 同上終了  
 十三日 月曜 本日より短縮授業開始  
 二十三日 木曜 終業式舉行  
 ○九 月  
 一日 火曜 始業式舉行  
 十四日 日曜 校庭にて八日市中學と野球試合  
 十七日 水曜 第五、四學年生徒向三日間兵營生活見學の爲め敦賀に向ふ  
 二十日 日曜 校庭に於て岐滋野球大會  
 二十二日 火曜 第五時限全校生徒招魂社參拜  
 二十五日 金曜 本縣高尾視學官來校視察  
 二十八日 月曜 縣下中等學校聯合演習に參加の爲め、第四學年生徒饗庭野へ行軍す  
 ○十 月  
 十八日 日曜 陸上大運動會  
 二十三日 金曜 第五時限口腔衛生講話あり

校友會各部役員 (昭和六年度)

二十八日 水曜 本日より四日間臨時考查  
 ○十一月  
 三日 火曜 明治節拜賀式、式後全校長距離競走  
 五日 木曜 菅野力雄氏の南米に關する講話あり  
 十三日 金曜 行幸記念式、式後全校生徒の御座所拜觀、午前十時より校内武道大會  
 二十五日 水曜 第四時限、全校生徒滿州出征軍犒軍  
 ○十二月  
 七日 月曜 第四時限、五年生のみ滿州派遣兵犒軍  
 十一日 金曜 第五時限より後藤蒼洋氏の支那事情講演あり  
 十二日 土曜 零時二十分全校生徒滿州派遣兵犒軍  
 十五日 火曜 本考查開始  
 十九日 土曜 同上終了  
 二十一日 月曜 第四學年生徒實彈射擊  
 二十三日 水曜 第五時限より狩野教官の滿蒙問題に就きての講話あり  
 二十四日 木曜 終業式、團分列式

- ◇學藝部 部長 寺川先生  
 理事 居井先生  
 委員 (五年) 松宮實 近藤謙次郎  
 (四年) 西田亮三 夏川文二郎  
 (三年) 田澤清一 西垣正勝
- ◇雜誌部 部長 笠井先生  
 理事 平井先生 藤下先生  
 大崎先生 寺川先生  
 委員 (五年) 寬登 藤村三郎  
 門野貞雄 藤野精一  
 (四年) 上松信一 門川三郎  
 竹内一 田中整司  
 (三年) 西村久雄 山本高次郎  
 杉橋均五 山田惠一
- ◇圖書部 部長 松田先生  
 理事 竹下先生 今野先生  
 大崎先生

委員(五年)上田誠治 飯島三郎

(四年)郡田浩次 横山正一

小林弘 島津富雄

(三年)建部俊夫 相場徳三

部長 笠井先生

理事 村山先生 内田先生

委員(五年)村川文男 近藤國藏

(四年)山本源一 山口隆爾

理事 前田先生 薄木先生

委員(五年)北村安彌 加藤默英

(四年)綾戸 咬 加藤秀夫

部長 白井先生 杉原先生

理事 前田先生 杉原先生

委員(五年)藤本善雄 林正二

(四年)藤實正憲 西村平次郎

(三年)井口敏彦 藤本孫信

昭和六年度校友會費收入豫算

費目	收入豫算	備考
前年度繰越	一、九二七・六五	
職員酬金	一七五・七八	
生徒酬金	三、八九四・〇〇	五百九十名平均十一月分一人月額六拾錢
新入會金	二六六・〇〇	實収ニヨル
利子	六二・〇〇	昨年度ニ基ツク
計	六、三二五・四三	

委員(五年)河合芳章 金子裕

理事 平井(清)先生 石坪先生

委員(五年)近藤專太郎 木下平三郎

(四年)松井敬三 布施一男

部長 平井乙先生

理事 町田先生

委員(五年)田村高男 堤登良雄

(四年)北澤重雄 保坂信吉

(三年)奥村保次 淺島昭

部長 寺本先生

理事 小野先生

委員(五年)澤田平三郎 中村一郎

平塚孝城 柴田禮二

(四年)三橋文男 北川宗四郎

會計報告

昭和六年度校友會費支出豫算

費目	前年度豫算	今年度豫算	備考
端艇並艇庫新築費	一、二一五・七九	九一五・七九	
端艇並艇庫積立費	五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	
圖書部	三三〇・〇〇	二八三・〇〇	
雜誌部	三五〇・〇〇	三〇〇・〇〇	
武道部	四五〇・〇〇	三八六・〇〇	
端艇部	八〇〇・〇〇	六八六・〇〇	
野球部	八〇〇・〇〇	六八六・〇〇	
庭球部	四〇〇・〇〇	三四四・〇〇	
競技部	二五〇・〇〇	二一五・〇〇	
水泳部	一八〇・〇〇	一五五・〇〇	
陸上運動大會	二五〇・〇〇	二一五・〇〇	
運動場修繕費	一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	
園藝費	一〇〇・〇〇	一五〇・〇〇	
衛生費	五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	
道具費	二〇〇・〇〇	一五〇・〇〇	
遠足費	五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	
賞品費	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	
卒業式費	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	

雜費	三五〇・〇〇	三三〇・〇〇
五十週年記念式費積立	一	一〇〇・〇〇
豫備費	三七九・三九	四〇九・六四
計	六、五五五・一八六、三二五・四三	



## 編輯後記

藤村 三郎

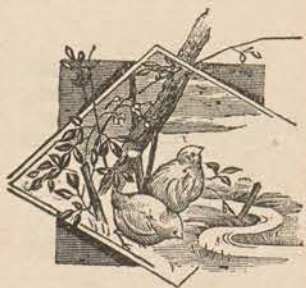
あまりに陋狭な現實の束縛より脱して「彼のペビロンの水青く、千年の色をたへたる」と叫んで見られよ。遠く彼の地に咲いた濃艶な、甘き美のしたよりは、暗黒の海底より、再び湧き出でて、私達の足許に、ひたひた押し迫ってくるでせう、そして間もなく限りなき、陶酔の夢を見るのです。此の獨創的な純な清らかな歡樂の境は、吾等青年のみによつて造り出されるものではありませんか、春を思ひ、秋を哀れむ

する私共五學年のものは、今後親しく、花やかに、吾等の通信欄を飾りたいと思ひます。

「入つたと思つたら早や出るのだな」と私共はいつも考へます。そしてあまりにも、不完全な自己を見て、獨り悔やみ、母校に對して、すまない感が深いのであります。けれ共、其の間の一つ、二つ幼い私共の心にふれた事共は、永く／＼人生の伴侶となつて、慰めてくれるでせう。なつかしい城山の鐘が聞えてきます。「ながめさびしき夕まぐれ、いづくの寺の鐘の音ならむ、諸行無常と告げわたる」とか。

終りに、この誌の永隆を祈り、在學生諸君の勇躍をお願ひします。

(終り)



者は眞に現世を味はんとする詩人です。否それは靈によりて、生きんとする吾等の皆でです。

そして此の吾々の赤血と熱とでもつて、パリアンの岩石に不斷の彫刻を吾等は續けてゆきます。

雜誌部の諸氏と共に原稿を見た時に感じた事の一つ、二つ例年通り投稿者が一部分の人達に限られてゐることです。此處は吾等が、自由に意見を發表し得らるゝ唯一の舞臺です。

殊に下級生の諸君は何故もつと、この立派な機關を認められないのでせうか、來年度に於いては、皆々こぞつて投稿し、一つでも自分の作品でもつて、此の誌を飾つて行かうではありませんか。

次に、今年是非常に創作文が少いやうに思はれました、凡そ文學のあらゆる分野の中で、創作文に於いて程自由表現をなし得らるる所はないでせう、獨創に富む吾等健兒が、今後大いに活躍すべき場所だと思ひます。

校長先生及び諸先生方の玉稿を頂き、吾等は共に喜び且つ先生方に、厚く御禮申し上げます。

又通信記事は非常に少いです。この事を痛感して、卒業



## 投稿の注意

- 投稿者は所定の原稿用紙を用ひらねたい。
- 原稿には年級姓名を明記し、各種類に依り別紙に認め、雅號匿名は許さない。
- 點、丸、括弧等は一字に算入する。
- 他人の名譽を毀損し、論の政治的時事に涉るものは採用しない。
- 投稿締切期日は必ず嚴守すること。
- 原稿の採否は凡て雜誌部々長及び理事の鑑識の範圍とする。
- 原稿の返戻は一切應じない。

明治廿七年五月三十日内務省認可  
昭和七年三月二十七日印刷  
昭和七年三月三十一日發行

【非賣品】

發行所

滋賀縣立  
彦根中學校

校友會

代表者

滋賀縣立彦根中學校内  
笠井

久

印刷者

滋賀縣彦根五番町六二ノ一  
村下

康

印刷所

滋賀縣彦根五番町六二ノ一  
村下印刷所

